

北野町の良さを話しながら販売する井上さん（左）



中心市街地で北野の野菜PR きたののうふふ in エマックス・クルメ

地域おこし協力隊員として北野町のPRを担う井上未央さん。8月14日から18日まで、エマックス・クルメで北野町の野菜や加工食品などを販売しました。

北野町の野菜は関西に出荷されるが多く、市民の皆さんに北野の特産品をもっと知って欲しいと企画。井上さんは「地元元気な女性たちの支えで、この企画が実現しました。期間中何度も来てくれるお客さんもいて、北野の魅力が伝わっているなど感じて嬉しかったです」と話しました。



慰霊碑の前で手を合わせる出席者。遺族の参加も年々減ってきています

責務は「風化させない」 戦災死者慰霊式

今年の8月11日で、市中心部に落とされた焼夷弾で214人が犠牲になった久留米空襲から74年。この日、小頭町公園で戦災死者慰霊式が行われました。

遺族や関係者など約90人が、サイレンに合わせて黙とうをささげ、慰霊碑に手を合わせて犠牲者を悼みました。市社会福祉協議会の萩原重信会長は「犠牲者はいつも市民。二度と繰り返してはならない悲劇を、風化させないのが私たちの責務です」と式辞を述べました。

久留米シティプラザ

子どもたちと、まちと、
文化の明日を元気にする



シティプラザのイベントや舞台裏を紹介します。



特別養護老人ホーム第2ひじり園で演奏するバイオリニスト・早稲田桜子さん

アウトリーチって何??

久留米シティプラザでは、市民の皆さんに開かれた劇場であることを目指して、平成30年度からアウトリーチ事業を行っています。

アウトリーチという言葉は、あまり聞きなれないと思いますが、もともとは「手を差し伸べる」などの意味があるようです。普段、なかなか劇場に行くきっかけがない人や、来館するのが困難な人、そして未来を担う子どもたちに、芸術や芸術家と触れ合う機会を届けるため、シティプラザを飛び出して、芸術家と一緒に皆さんのまちに出掛けて行く活動として、この事業を行っています。

これまで、福祉施設や病院、コミュニティセンターなどで、音楽や落語のアウトリーチをしてきました。小さい空間で、芸術家とコミュニケーションが取れることも魅力の一つです。

「芸術を心で感じ人生を豊かにするきっかけに」という願いを込めて、これからも活動していきます。

◎久留米シティプラザ
(☎0942・36・3000、FAX 0942・36・3087)

久留米市美術館

とき・ひと・美
をむすぶ



市美術館のイベントや所蔵作品を紹介します。



青木繁《天平時代》1904年
石橋財団アーティゾン美術館（旧プリチストン美術館）蔵

10期目の石橋正二郎記念館

石橋正二郎記念館の作品展示コーナーは、現在早くも10期目を迎えています。

7月、東京のプリチストン美術館がアーティゾン美術館に館名を変えた事に絡めて、昭和27年1月のプリチストン美術館開館記念展で展示された作品を紹介するとともに、正二郎の美術館創設への熱い思いも紹介しています。

同記念展は、外国作品55点、日本作品55点、彫刻9点で構成され、「左右の部屋を、日本の画家と西欧の画家と、それぞれ対照的に同じ点数くらいの絵を掲げ、西欧の才能と同時に日本人の芸術的才能も常に見守ってもらいたい」という正二郎の理想を形にしたものでした。日本作品55点の内訳は、浅井忠3点、黒田清輝4点、藤島武二36点、青木繁12点で、藤島と青木の作品が正二郎コレクションの核になっていたことが分かります。

【副館長：森山秀子】

◎市美術館
(☎0942・39・1131、FAX 0942・39・3134)

市政の動き

ケニア大使外交官と交流 くるめ英語留学に66人が参加



画面を通してイッサ書記官に自己紹介をする参加者。プレゼンも全員が行いました

久留米市立中学校の生徒66人が、8月7日から9日まで、すべての授業や会話を英語で行う「くるめ英語留学」に参加しました。

コミュニケーション能力の向上を目的に昨年から開催。最終日には、基礎コースはFMラジオの生放送で英語の発表、発展コースはインターネット電話「スカイプ」で外国人と交流しました。今年は、2020東京五輪・パラリンピックの事前キャンプを行うケニアの大使館の協力で、カディ

ジャス・イッサ書記官との交流が実現。生徒は、ラーメンや焼き鳥、花火大会など久留米の文化を紹介し、書記官の質問に答えました。長野真高さん（三浦中3年）は「米国の大学に入学したいと思っています。ネイティブの発音に触れて、海外を肌で感じた。行きたい気持ちがより強くなりました」と充実した表情を見せました。

◎学校教育課（☎0942・30・9217、FAX 0942・30・9719）